

ビュッロ  
ここで生きてきた  
ここで生きている  
ここで生きていく

障がいのある人で、就業を指している人と企業を結び付けているのが、広島西障がい者就業・生活支援センター『もみじ』。「今後、学校を卒業するの就職したい」、「今、仕事をしたいが、うまくいかずに悩んでいる」といった相談にスタッフ5人で対応している。

センターは県内に7つ。廿日市市・大竹市の地域を担当する同センターの生活支援員米田耕さんは、「就業は生活の一部です。切り離して考えることはできないため、これから就業しようとする人には、安定した生活を送るためのサポートなどを行っ

## 障がいのある人の「働きたい」を応援



あろこうかい  
(社)桜虹会  
就労継続支援B型  
ハナミズキ  
廿日市市平良一丁目19番22号  
問合せ ☎1281

平成8年に精神に障がいのある人とその家族が中心となり、無認可作業所を廿日市地域と佐伯地域でスタート。平成14年には法人格を取得し、現在では4つの作業所を運営している。地域で生活する障がいのある人が、自分らしい社会生活が送れるよう、地域福祉向上のために活動している。



福祉就労ワーキング代表  
(ハナミズキ)  
河野 裕司さん

ています」と話す。

また、雇用する企業側への支援も行い、障がい者の雇用を考えている企業へのアドバイスや、就労を継続するためのサポートなどにも応じている。

来年度から、民間企業の従業員全体に占める障がい者の雇用率について、現行の1・8%を、2・0%に引き上げることなどが決まっている。そうした背景には経済環境、職場環境の変化や、障がい者の就業意欲が高まっている背景などがある。

「個人によって障がいの特性が異なるため、支援には深い部分まで入り込むことも多いです。どのような仕事ができるのか、企業の方と一緒に考えサポートするように努めています」と米

田さん。

しかし、一旦は就業しても長く続かないケースも多く、「就業して終わりではなく、その後、安定した仕事ができるよう『定着支援』が大事なんです」。

「本人の希望に沿った支援を行うことを第一に考えています。今後も、行政や福祉事業所など関係機関との連携をいっそう深め、就業を

目指している人と企業とのパイプ役になれるように頑張りたい」と、話してくれ



医療法人 ハートフル  
広島西障がい者就業・生活支援センター  
もみじ  
生活支援員  
よねだ・おさむ  
米田 耕さん

身体・精神・知的・その他障がいのある人の就労をサポートするため平成22年にスタート。電話で予約し、初回相談(登録)の後、必要に応じ就職・定着をサポートする。受付時間は、9時30分～17時。

医療法人 ハートフル  
広島西障がい者就業・生活支援センター  
もみじ  
廿日市市新宮一丁目13番1号  
(あいプラザ3階)  
問合せ ☎1227



## 障害者週間 12月3日(月)～9日(日)

障害者週間は、平成16年の障害者基本法の改正により、国民の間に広く障がいのある人の福祉についての関心と理解を深めるとともに、社会、経済、文化その他あらゆる分野の活動に積極的に参加する意欲を高めることを目的として法律に明記されました。

事故や病気などによって、障がいは誰にも生じ得るものです。障がいは多種多様で、外見では分からない障がいもあります。障がいによる不自由さはあっても、周囲の理解や配慮があればできることも少なくありません。

障がいのある人の思いを聞いて、日常生活や事業活動の中でできる配慮や工夫を一緒に考えていきたいと思います。誰もが暮らしやすい社会の実現は、そうした一歩から始まります。

これまでの、事業所間の交流や連携もあまりなかったのですが、福祉就労ワーキングとしてみんなで取り組んだことで、新たな仕事や販路を開拓することができました。連携の力はすごいです。できたらいいなと思っていたことが、廿日市商工会議所や宮島町商工会・宮島表参道商店街などの皆様のご協力があって、共同受注や念願の宮島での商品販売を実現することができました。

私たちの取り組みで得られたものは、単に工賃アップだけでなく、人と人との繋がりでした。

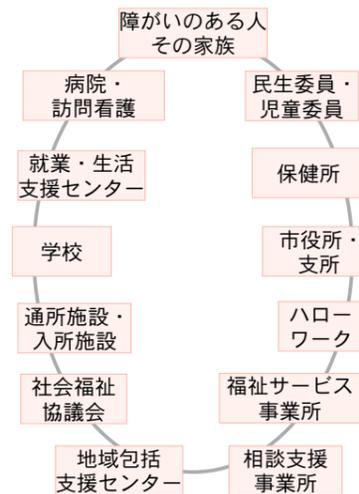
これからも、多くの皆さんの協力のもと、福祉事業所で働くメンバーさんの働きがいのある仕事を開拓していきたいと思ひます。

第51回広島県身体障害者福祉大会で、次の方々が表彰を受けました。  
この表彰は、自己の身体障がいを克服し、自立更生された方で他の人たちの模範となる人に贈られるものです。

身体障害者等更生援護功労者等知事表彰  
原本 弘子さん(大野)  
広島県身体障害者団体連合会会長表彰  
東 和彦さん(佐伯)



写真\_1 平日12時～16時30分の間、市役所1階ロビーで行われているパンの移動販売。福祉事業所に通う障がいのある人の工賃アップに向けて取り組んでいます。写真\_2 各作業所で作られた商品は、宮島表参道商店街にある観光案内所「info(インフォ)表参道」でも販売。写真\_3 企業と協力し、割り箸の炭化事業にも取り組んでいます。



障がいのある人を支えるためには、一つの機関ではどうしても限界があります。それを機関・組織を超えたチームアップロイでカバーしていくのが、廿日市地域自立支援ネットワークです。このネットワークでは、「障がいのある人一人一人の願いを大切にし、誰もが社会の一員として地域の中で安心して生き生きと暮らしていける廿日市市」を目指すためのネットワークづくりや課題解決に取り組んでいます。

## 廿日市地域自立支援ネットワーク

## 福祉就労ワーキング

障がいのある人が地域生活を送るためには多くの課題があります。

この課題解決の一つの取り組みとして、廿日市地域自立支援ネットワークでは市内の福祉事業所で福祉就労ワーキングを立ち上げ、福祉事業所に通う障がいのある人の工賃アップに向けて取り組んでいます。

障がいのあるなしに関係なく、自立した生活や社会参加において、就労はとても重要です。しかし、広島県内の平成22年度の福祉事業所に通う障がいのある人の月額平均工賃は、1,034円74円と低い数字となっています。

福祉就労ワーキングでは、工賃アップに向けて、市役所1階ロビー販売、宮島での商品販売、企業からの共同受注などに取り組んでいます。

# 誰もが安心して暮らせるまちに